国鉄労働組合東日本本部
工務協議会

No.8
2025.2.28

発行責任者
編集責任者
東日本工務協議会

# 第36回定期委員会を開催！！

## 二〇二五年一月二五日に東京地本会議室において定期委員会を開催し、一年間の方針を決定しました！

定期委員会は、構成員・委員23名中20名の出席、委任状1通での委員会成立のもと東京地協の岡添委員を議長に選出をし、出羽議長より挨拶をいただき、清水事務長から経過・方針・決算・予算の提起を受けて討論に入りました。

【出羽議長あいさつ】

昨年、JR東日本の重大事故やJR各社で脱線事故や触車事故が発生し鉄道の安全性が揺らいでいます。JR・P社では、要員不足による労働強化と健康破壊、将来不安が拡大しています。

昨年12月「在来線保線部門の将来ビジョンの実現に向けた組織の見直し」の本社提案を受け、各地協の要求集約を要請します。

工務と電気協議会の平成採交流会を3月16～17日に仙台市で開催します。安心して生活・労働が出来る賃上げ獲得に向けて、25春闘の行動に全力を上げよう。

### 委員発言

青葉緑化工業は、鉄道沿線の木を管理し危険木の伐採・地権者との協議を行っている。大船渡線の列車脱線事故で国交省からJRに木の管理の指示が来た。

現状、危険木の伐採・管理が追いつかない。倒木の運転被害は今後も増えて行く。P社社員に組合の必要性を話している。（盛岡）

フレックスタイムの導入に伴い、夜勤時の扱いや共同作業で1人だけ嫌だという対応が出来なくなるのではと懸念される。管理者の勉強会が始まった。（千葉）

一昨年、会社が除雪体制を取らず大雪で列車が止まった経緯から団交で、現場判断に委ねるべきと主張し会社は了承した。（高崎）

出向先は、人が少なく若手が採用されても本社に行ってしまう。本体の若手と情報共有し、引き続き交流をして行きたい。（八王子）

直轄の事故が多く安全担当からメールが届く。異常な状態と感じる。嘱託としてG会社の国労組合員で頑張ります。（長野）

組織の見直しで所長の説明があったが、質問には回答が無かった。フレックスの導入について丁寧な説明を求めて行きたい。設備関係の団交を行った。（水戸）

若年退職者は毎月出ている。職場アンケートを集約し団交を開催して行く。事故が昨年を超えている。技術判断できる経験者がいない事の要因が大きい。（建設）

昨年10月、山形で芋煮会を開催し若手3名が参加し交流した。

2024年の冬季要求は未提出、1月に経験不足の中で脱線が起きている事を検証し来年の要求に向けて集約している。（仙台）

組織の見直しの説明会で、保線センター間の異動発令が不要となる事から、働き方が不安定になる。フレックス制度の導入は、保線のグループ作業としては良いものではない。初任給10年までの支給額の見直しがあるが、離職を防ぐことが必要である。（仙台）

フレック制は、来た時間から勤務打刻して勤務修了、コアタイムなしの勤務となる。夜勤・G作業・当番制もあり、所長に丁寧な説明をする様に求めた。（横浜）

会社施策に技術継承の文言は出ていない。まだ人間系でやらないといけない。P社に丸投げをしている。会社が危機状況になれば真っ先に首を切るのは労働者という事を訴えることが必要。歯止めをするのが労組の任務である。フレックスの矛盾点、誰が責任を取るのかをやって行くべき。（東京）

以上、11名の委員より発言がありました。

「岡添議長退任挨拶」

未加入者は、疑問や不安を持っているが、吐き出す所がなければ、解決するすべがない職場状況にある。私達が、支えて寄り添っていく事が必要である。

「出羽議長集約」

「在来線保線部門の将来ビジョンの実現に向けた組織の見直し」は、各地協からの要求を集約し交渉を行います。若手との交流・仲間の声を掴むこと、工務協ニュースやTUNAGの情報を活用し組織拡大につなげよう。賃上げ生活向上のため、25春闘に奮闘すると共に工務協運動を盛り上げて行きましょう。